

---

『物流 Weekly』連載原稿

『日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー』

“社長！それは違います！” 第139回

---

<タイトル>

「4年あれば何でもできる」

<本文>

北京オリンピックも終了し、次のロンドン大会まで五輪観戦の楽しみはお預けである。さて、いつも不思議に思うのが開催国の活躍ぶりである。今回、中国メダル獲得数は米国、ロシアを抑え、堂々世界一となった。毎回、開催国が例年以上の活躍をし、必ず結果を出すという「開催国マジック」。毎回、開催国のつもりで選手の育成や有名コーチを招聘すれば力を出せるのではないかという素朴な疑問が残る。また、反対に、国家レベルでこれらのエネルギーと人材そして資金を投下・集中させることがいかに困難であるかということも知らされる。

もうひとつ、今回、日本の金メダル九個のうち、七個は連覇によるメダルということにも感慨深いものがある。いくら「超人」といわれるアスリート達でも、大会が終了すれば、少なくとも集中力はスイッチがオフの状態になるだろう。ということは、連覇するということは、一旦途切れた心・技・体を四年後にあらためて最高の状態にもっていくという「立て直し」作業を行っていることになる。

私は今回の北京オリンピックで、上の二つの事柄から「四年あれば何でもできるのだ」と強く確信したのであった。「会社を息子に継がせる」と腹を括っても、「この人材を幹部にする」、「センター長にする」と決めても、「年商を十億にまで持っていく」ことを覚悟しても、四年あれば充分実現できるのである。風土改革、組織改革もしかりであり、財務の健全化も同様であろう。経営者のあきらめない夢と目標、そして強い信念次第である。